

おとうさんとみどりのバイク

胸元むねもと 聡士朗そうしろう

歩いているときはそよそよ、走っているときにはサーサー、そして後ろにのっけているときにはビュービュー。

さくらがさくころ、うちに、みどり色のバイクがとどきました。おとうさんのバイクです。

「バイクののるか。」

と聞かれたので、

「ほく、のりたい。」

と言ったけれど、おにいちゃんものりたい、おかあさんものりたいと言います。三人で話し合って、ほくが一ばんにのせてもらうことになりました。

ぼかぼかとあたたかい春なのに、ぼうかんぎと、あつ手のズボンをはいて、手ぶくろをつけました。ヘルメットをかぶるとほつぺたがおされてむにゅつとしたおもしろいかおになりました。

おにいちゃんたちが大わらいしています。

バイクにまたがってから、セーフティベルトでおとうさんとほくをつなげました。はじめてのるバイクは、どきどきしておとうさんの上ぎをしっかりつかみました。

ゆつくりと走り出すとドキドキがワクワクにかわりました。ビュンビュンながれるけしきは、いつも車の中から見て

いるけしきと同じなのに、なんだかちがいます。

かおにビュービューと風が当たり、見上げると空の青と雲の白、左をむけば、とおくに海が見えます。ときどき、うすびんクの出ざくらが見えては、ながれていきます。

「とても気もちがいい。」

ほくは、そう思いました。

バイクがとまったのは、えぐちはまだです。よく行く海なのに、なんだかとてもたのしい気もちになりました。ふりかえると、おとうさんもわらっていました。

おとうさんは、ほくだけでなく、おにいちゃんやおかあさんものせて走ってくれます。高校生のおにいちゃんたちがつまらなそうにしているときや、おかあさんがなやんでいるときなど、みんなの気分てんかんをするために、走ってくれます。

おとうさんは、しごとがたいへんで、よくとまりがけのしごとで家にはない日が多く、ほくは、さびしく思っていることもありました。でも、おとうさんは、しごとだけでなく、ほくたち、家ぞくのことを思ってくれているのだなあと思いました。

「バイクののるか。」

そう、おとうさんの、こえをかけてくれるのが、まちどおしいです。